

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎カラー特集 第27回「東南アジア青年の船」事業
事業報告会（航空機による派遣、世界青年の船）

マクロコズム 2001.3



vol. 39

(財)青少年国際交流推進センター

第27回「東南アジア青年の船」

1974年にアセアン（ASEAN）との共同声明に基づいて開始された「東南アジア青年の船」も、27回を数えました。今回はブルネイが宗教上の理由で参加しませんでした。カンボディアの正式参加が成り、アセアン加盟国の全てが本事業に参加する基盤ができました。今回の紙面では、日本での活動に特にスポットをあててみました。



ワールドユースミーティングで基調公演
▼をする明石元国連事務局次長



◀ メガワティ副首相への表敬で
笑顔の駒形管理官

▼ ラオスの文化紹介より



▲ 船内活動として大切なディスカッション

▼ 日本の文化紹介（ジャパン・デイより）



第27回「東南アジア青年の船」日本国内プログラム

代表者の秋篠宮殿下妃殿下への御接見・総理表敬、各国混合のグループに分かれて11県への地方旅行（ホームステイ含む）、都内視察、課題別視察や交流会を含む「アジア青年のつどい」、評価会等のプログラムが10日間の滞在の間に行われました。

地方旅行



大分県
（平松知事への表敬訪問）



三重県
（ホームステイ家族とのマッチング）
日本を含め寄港地全てでホームステイが行われる

沖縄県（首礼門の前にて）



愛知県（防具も付けて剣道の体験）

石川県
（ホームステイの前に小学校訪問）



第27回「東南アジア青年の船」「アジア青年のつどい」より

課題別視察 (24 か所の訪問先が生まれ、希望によって選択したコースに参加することができます。)



▲ 医療コースの国立がんセンター



▲ ボランティアコースの上野動物園にてシルバーボランティアの方々に案内していただく



▲ 「富士山」はアセアンの青年にとって日本に来たら是非とも行って見たい所だそうです

富士山麓にて



▲ 富士山麓の「ホールアース自然学校」でのロープワーク体験

交流の夕べ

◀ 「よさこい」を披露するローカルユース
(「アジア青年のつどい」のみに参加する日本青年をローカルユースと呼んでいます)



第13回「世界青年の船」 に参加して

Louis Pierre Beauregard
(Canada)



皆さんこんにちは、ルイ・ベルガードと申します。私は第13回「世界青年の船」事業のカナダ参加青年です。

この度、このようなスピーチの機会を得ることができ、大変光栄に思います。私は、日本政府にこの素晴らしいプログラムのお礼を申し上げる共に、このプログラムがいかに有意義なものであったかをお伝えするために、はるばるカナダから参りました。

通信技術の飛躍的な発展により、世界はどんどん

Good afternoon everyone, my name is Louis Beauregard. I was on SWY13 as a member of the Canadian Delegation.

I am very honored to be speaking to you today. I have traveled all the way from Canada to thank the Japanese government for this amazing program and to show you how much I believe in this program.

Thanks to the communication revolution, the world is getting smaller and smaller.

主 な 内 容

第13回「世界青年の船」に参加して……5～9

Louis Pierre Beauregard (カナダ参加青年)

「アジア太平洋青年招へい」

大阪府受入れ報告 …………… 10～11

第1回文化体験ツアー …………… 12～13

内閣府青年国際交流事業の参加青年募集 … 14

平成13年度事業日本参加青年募集担当

都道府県主管課一覧 … 15

タイSIGA参加／全国推進会議／全国大会

…… 16～20

〈表紙の説明〉

第27回「東南アジア青年の船」

課題別視察（教育コース）

「新宿区立市谷小学校」校庭にて

第13回「世界青年の船」帰国報告会



▲ 思い出の歌を合唱

ん小さくなっています。地球人口が増えつづける一方、飢餓と子供の貧困も増え続けています。国家の結びつきが増々強まり、一方で戦争は絶えません。E-mailを通じて世界中の友人との交流が可能である一方で、私たちは近所の人や同じ街の人を知らないという現状があります。

私たちは、国家が世界平和、平等の権利、健康的な環境を訴える時代に生きています。それらは、多くの国においては、投票者に良い印象を与えるためだけに使われるのです。

しかし日本は違います。日本は他の国では話題に上るだけで終わってしまう「世界青年の船」事業のようなすばらしい事業を実際に行っているのです。

「にっぽん丸」という船の上で、世界中から集まった青年を教育することにより、世界の未来は益々輝かしく見えます。船上で培われたグローバルな友情関係に大変感謝しています。「世界青年の船」は、私と16か国からの新しい友人達に2つの大変貴重なものを与えてくれました。

- (A) そこに暮らす人の話や経験を通じて、16か国を見て理解する能力
- (B) 他国の人の目を通じて、自国を再認識する機会

The earth's population is growing, hunger and child poverty is also increasing.

Countries are interacting with each other more and more, yet there is still war.

E-mail allows people to chat with friends all over the world, yet we don't know our neighbors and the people in our own cities.

We live in a time where countries claim to want world peace, equal rights and a healthy environment. But for most countries these are only used to impress the voters.

But not in Japan, thanks to the Ship for World Youth Program, Japan is doing what other countries only speak about. By educating the youth of the world on the Nippon Maru, the future is looking brighter. Thanks to the global friendships created on board.

The Ship for World Youth gave me and my new friends from 16 countries two very rare opportunities.

- (A) The ability to see and understand 16 other countries through the stories and experiences of a person who lives there.
- (B) It gave me the opportunity to view my own country through the eyes of someone else.

If you wanted to do one thing to solve the world's problems and make a more understanding and happier environment for everyone, that is what you would want to do.

You would want to have everyone on the planet to meet face to face, shake hands and say... Konnichiwa, Hello, Ola, Malo Elele, Bula,

もしあなたが、地球上の問題を解決し、皆がより理解できるような良い環境作りをするために、何か一つやってみたいと思うのなら、あなたがやってみたいと望むことをやってみればいいのです。

あなたは地球上の多くの人と出会い、じかに会って握手をかわし、こう言うでしょう。

こんにちは (Hello, Ola, Malo Elele, Bula, Bonjour, Ni Hao Ma!)

地球上の人々皆が一つになり、世界情勢を話し合い、自国ではどのような対応をしているのかを話し合うのです。そして、共に食事をし、踊り、冒険し、泣くことでしょう。真っ青な海を航海しながら、「にっぽん丸」ではこれらのことが日々行われているのです。

残念ながら、60億人もの人が一度に乗船すれば、「にっぽん丸」は沈んでしまいます。しかし、徐々にではありますが、私たちは、大きな変化をもたらすことができるのです。

私はこれまで世界中を旅しましたが、この「世界青年の船」事業に匹敵するような素晴らしいプログラムに出会ったことはありません。もっと多くの国が、このすばらしい事業の必要性を認識し、

Bonjour, Ni Hao Ma!

You would want all the residents of earth to come together and discuss world affairs and how they do things at home. You would want them to eat together, dance together, have adventures together, and cry together. And this is what the Nippon Maru is doing every time it sails the ocean blue.

Unfortunately it would sink with 6,000,000,000 people on it, but little by little we will make a big difference.

In all of my world travels, I have not seen or heard of any other program that comes close to the excellence of the SWY. I only wish that more countries would acknowledge and try to duplicate this amazing program.

Before the ship program, I was unsure of what I wanted to do with my life. I was a university student who had hitch hiked 40,000km around the world looking for answers to questions that confused me 24 hours a day.

The ship program helped me clarify those questions, and helped me start answering them. My new international friends helped me realize that I can make a difference in the world. I now know that waiting around for someone else to solve the problems or to right a wrong is wasting time. I now realize that everything is possible, and that it only takes one person with a dream and faith, to start making things happen.

I returned to Canada after the program with a nice tan, thousands of pictures, 102kg luggage,



第13回「世界青年の船」帰国報告会

同じような事業を各国で始めることを切に願います。

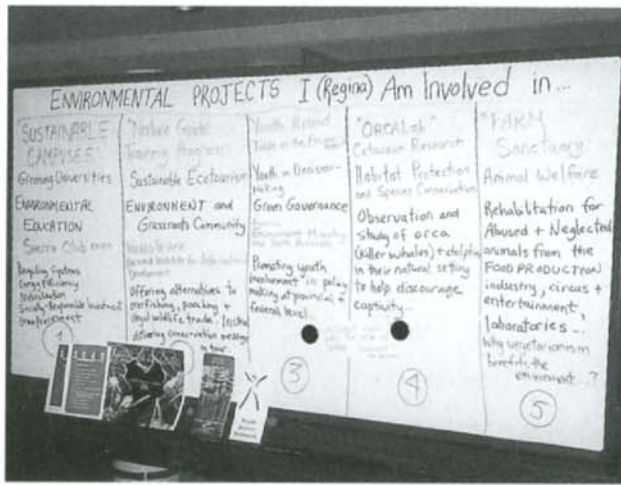
私は、「世界青年の船」事業に参加する前は、人生において何をしたいのかがわかりませんでした。かつては、一日24時間、常に私を悩ます質問の答えを探し求め、世界中を4万キロに渡りヒッチハイクの旅をする大学生でした。

しかし、「世界青年の船」事業は、それらの質問が何であるかを明らかにし、答えを出す手助けをしてくれたのです。私の新しく世界中にできた友人たちは、私が世界に貢献できるということを気付かせてくれました。私は、問題を解決してくれたり、間違ったことを正してくれる誰かを待っているのは、時間の無駄であるということに気が付きました。自分に不可能なことは何も無い、夢と信念を持ち行動を起こせる一人の人間であればいいのです。

私は「世界青年の船」事業に参加した後、真っ黒に日焼けし、何千枚もの写真、102kgの荷物、そして二つの使命を持ってカナダに帰国しました。

その使命とは、人々に、彼らの周りに存在している世界を見せ、彼らの視野や心が、世界の出来事や状況に開かれるように手助けをすることです。私がこのような活動をすることによって、私の周りの人々や私に出会った人が、他を受入れ、他をいたわり、活動的になることを望んでいます。

第2の使命とは、「世界青年の船」事業に参加する以前から行っていたモチベーションスピーキングを継続させることです。これを継続することによって、人々が直面している問題への数多くある解決策を提示し、彼らにとって幸せな心の状態を創り出す手伝いをしているのです。



and a mission.

The mission ... , to show people the world that exists around them. To help them open their eyes and minds to world issues and situations. I want to do this in hopes of making people around me and people I meet more accepting, caring, and active.

The second part of my mission is to continue my motivational speaking, which I was doing before the ship. By doing this I help other people create a happier state of mind for them by showing them the numerous possible solutions to problems they face.

To begin accomplishing my mission I have gotten funding from my university to create an exhibition. This exhibition will combine my 60 best photographs, many photos from PYs and an assortment of stories and culture descriptions from as many of the 55 SWY participating countries as possible. I will take this exhibit to as many schools in as many countries as humanly possible.

I continue to give my motivational speaking in

これらの使命を達成させるための第一歩として、私は展示会を開催することにし、大学から資金を得ました。この展示会では、私の撮った写真の中から最も良いと思われる60枚と参加青年からの写真も含め、55か国の「世界青年の船」事業既参加青年からできるだけ多くの感想や文化体験談を集めるつもりです。そして、できるだけ多くの国、多くの学校でこの展示会を開催していきたいと考えています。

さらに、高校、大学、そして小規模な会社で、モチベーションスピーキングを続けていきたいと考えています。と言いますのも、私が一生懸命活動することで、「世界青年の船」事業に参加した私の兄弟(姉妹)と同様に、私自身が変化をもたらせるということを確信しているからです。

私は一生の宝物を与えてくれた日本の人々と日本政府に日々感謝しています。今後「世界青年の船」事業に参加する人は、その機会を精一杯生かし、その経験があなたの将来を決定する助けとなることを願っています。どのような状況でも、楽しみ、そして笑うことを忘れないでください。

私に質問したいことや話したいことがある方は、どうぞこの発表の後に声をかけて下さい。そして私のモチベーションスピーキングに興味があるという方は、明日の午後1時15分に北沢タウンホールに来て下さい。最寄駅は下北沢です。どなたでも参加できます。

どうもありがとうございます。どうぞ良い1日をお過ごしください。

ベルガードさんは、第13回「世界青年の船」に参加した後、再度、今回の帰国報告会に合わせて自費で来日し発表者の役割を果たしてくれました。

high school, universities, and small companies. Knowing that if I continue and work hard enough that I will make a difference, just like my brothers and sisters around the world who participated with me in the ship for world youth program.

Everyday I am thankful to the Japanese people and government for giving me the opportunity of a lifetime. I hope that those of you who go on the ship program in the future years make the best of it, I hope it helps you decide your future, but whatever happens always remember have fun and smile.

If you have any questions or want to talk with me please do so after this presentation. And if you would like to attend one of my motivational talks, please come tomorrow to Kitazawa Town Hall at 1:15 PM, in Shimokitazawa.

Everyone is welcome. Domo arigato gozaimasu. Have a great day!!



「アジア太平洋青年招へい」大阪府受入れ報告

アジア太平洋青年招へい実行委員会委員長

稲垣美由貴

(第7回「世界青年の船」参加)

「アジア太平洋青年招へい事業」の実行委員会の活動は昨年5月末にスタートしました。約4か月の準備期間を経て、外国青年と対面した時はある種の感動を覚えました。が、それまでにはさまざまな葛藤、焦り、不安、そして喜びもあったのです。

私たちがまず準備期間において、手探りで始めたことは日程を決めることでした。これが以外と困難でした。いいアイデアだ、と思えば制限があって出来なかったり、先方に断られたり。最終的には、ATCの見学、天王寺からチンチン電車体験、羽衣での野外炊さん、がんこ寿司での懇親会、ミナミでのボーリング、大阪城見学など、そして歓迎レセプション、フェアウェルパーティー

も含めた日程が出来あがりました。

これらのプログラムを各担当で分担し、それぞれの作業を進めていきました。ボランティアを続けていると、よく感じることもあるのです。それは準備期間も関わっているほうが充実感、達成感も大きいということです。今回も夏の暑い時期などを挿んでいたのですが、私はミーティングには全回出席しました。(立場上当然ですか?) その分、この事業にも深く関わる事が出来た、と自負しておりますし、更には大阪に来る前の外国青年が参加するプログラムである東京のフォーラムにまで参加させていただいたのです。

大阪らしいホスピタリティをアピールしよう、と委員一丸となり、外国青年ひとりひとりにグリー

ティングカードも送りました。これはとても感謝されたようで、私たちも実行委員冥利につきました。

外国青年がいよいよ来阪しました。韓国、ラオス、ミクロネシア、トンガから各5名で合計20名です。上記のプログラムと一緒に過ごしていくなかで、コミュニケーションを手探りで取りながら、お互いの信頼感



を築いていきました。

各プログラム内容については現在作成中の報告書に任せて、ここでは私の心に残っている外国青年の姿を述べたいと思います。

韓国のメンバーは、焼酎「眞露」を一緒に飲もう、と誘ってくれたり、日本語に堪能なメンバーは将来の夢、なんかを話してくれました。互いの共通語に困難したラオスのメンバー。とてもシャイでなかなか打ち解けてくれなかったのですが、今でも時々メールをくれたり、仏教徒にも関わらず「メリークリスマス」とカードを送ってくれます。そして手紙の最後にはいつも your best friend と書いてくれます。ミクロネシアのメンバーとはあまり話すことが出来ず、これが私の今回の反省点です。彼らが帰国後、メールのやりとりを一度しました。トンガのメンバーはとてもひとなつこくって、彼らのことを思い出すと今でもつい笑みがこぼれてしまいます。大きな体と優しい心を持ち合わせた南太平洋の友達が私も大好きです。そして今でもメールが時々来ては「大阪が恋しい」と言ってくれるのです。



コミュニケーション能力は語学力には比例しない、と思います。「伝えたい」何かを持つこと。これがまず大切なこと。そしてそれに必要な語学力、交渉力、ユーモア、などを持つよう少しずつ自分を磨いていけばいいのだから、と自分に言い聞かせ、この実行委員会にも関わってきました。この事業に関わり、大阪と外国にすばらしい友人に出会いました。これが私の財産であります。この財産はきっとあなたにもお分けすることが

できるでしょう。2000年の「アジア太平洋青年招へい事業」は終わりましたが、関わったみんなに、いろんな種を捲いていきました。近い未来に大きな花が咲くことを祈りつつ、これからも国際交流活動に関わっていこう、と期待に胸膨らませております。



第1回文化体験ツアー（韓国編）紀行

島根県国際交流青友会

錦織 武央

（青年の船、花の21回生）

1998年（平成10年度）当会では「アジア太平洋青年招聘事業」の地方プログラムを受けブルネイ・ダルサラーム国、大韓民国、ナウル共和国、パラオ共和国、フィリピン共和国の青年達と有意義な交流の時間を過ごすことが出来ました。

個人的には仕事の都合もありプログラム全般を通じて青年達と一緒に居る時間は少なかったが、その遅れを取り戻すべくフェアウェルパーティーでは家族同伴で精力的に彼らとの交流を諮った。そしてその時交わした一枚の名刺が今回の文化体験ツアーに大きな意味を持っていた。その名刺には「韓国青少年開発院 特殊教育学博士 朴 英均」と書かれていました。

2000年（平成12年度）は経済危機後の復興、日本文化の解禁或いはグルメブームも手伝って韓国の話題が電波に載ることが多かった。私も6年前に父親、家内、従姉妹たちとソウルに訪れてから足が遠のいていたので、20世紀の終わりに是非もう一度訪問しておこうと思い立ちました。しかしながら、苟も国際交流をライフワークと自負する身にあって隣の国に遊びに行くというのでは少々お寒いので、当会のメンバーにも参加を募り、そのお題目が格調高く「文化体験ツアー」でした。この文化体験という言葉はたいへん便利なもので、アカすりエステは生活文化、ブルコギを食べれば食文化となる訳です。但し、余りにも日本人の行

かない現地の人たちが好む場所や味を求め過ぎたため、参加者一同たいへん楽しくはあったのですが肌や舌、某臀部の谷間に影響を受けることと相なりました。

世間は年末の繁忙期中、男性3人、女性4人の計7人のメンバーで12月16日から18日のわずか3日ではありますが、ソウルへの旅に出かけました。直前の15日の夜に本当は一緒に行くはずだったもう一人の男性が、カキフライの食あたりで入院したのが何かの暗示のようにも思えた出発の日ではありました。

当会では独自事業としてアメリカ中南部教育機関視察事業（通称：SEPAプログラム）を3年前から実施し、県内の学校の先生とアメリカの教育関係者との交流を図っています。将来的にはアメリカだけに留まらぬ世界的な広がりや分野的にも教育部門だけではなく、NPOや福祉、環境問題といった範囲にも事業を展開出来る事を望んでいます。SEPAの事業拡張への第一歩として日本同様、いやそれ以上の受験競争社会と聞くお隣の国、韓国に共通のテーマを求めることは有意義な事と考えました。そして今回の韓国訪問の目玉が前述の朴先生との再会となったのです。

戴いた名刺のメールアドレスに、残念ながら韓国語は出来ませんので日本語と英語でアクセスし、訪問日程と先生にお会いしたい旨を伝えました。

数日後、先生より島根県訪問の事をしっかりと覚えていて是非我々に会いたいとお返事を、アメリカに3年間留学されていたという見事な英語で戴いた。ただ一つ問題は先生が私の顔を覚えておられないそうで心配されていましたが、「な〜に先生。私も実は先生の顔を覚えていないんですよ。頼りは先生の名刺だけです。でも、待合せの場所に行けば必ず雰囲気ですわりますから大丈夫ですよ。」と余りフォローにならないような回答でまかして、16日夕方のホテルロビーでの待合せを迎えることとなりました。案の定、国際交流という共通の体験をした者同志の再会は時の経過を経てもたやすく、握手をするや否や先生に用意して戴いたブルコギレストランへ向い、大いに話して花が咲き、先生はソウル市内より車で1時間半も離れた郊外にお住まいということにも係らず、遅くまで我々にお付き合い戴きました。日本がアメ

リカ社会を追従するかの如く、儒教の国と言われる韓国でも日本の社会と同じような現象や事件が頻発しているようでした。取り分け青少年の「いじめ」「暴力」「自殺」といった状況はかなり深刻であるようで、先生も心痛のご様子でした。また、SEPAプログラムの話にはたいへんな興味を示して戴き、今後の展開の足掛かりにしたいという韓国訪問の主題は大いなる成果を上げたと言っても過言では無いように思われます。この春より米子空港〜ソウル定期便が就航し、またソウル近郊には関空の5倍という国際空港が完成すると関空まで車で6時間も掛る我々にとって世界への玄関は間違い無くソウルになるでしょう。総務庁の事業でもらった一枚の名刺が、今回の再会を生み、今後へともたらす可能性は図り知れません。たった一枚、たった3日間。されど大きな意味をもったそれぞれでした。全て人との出会いに感謝！



筆者、後列右から二人目

内閣府青年国際交流事業の参加青年募集

内閣府の行う青年国際交流事業は、日本と諸外国の青年の交流を通し、相互の友好と理解を促進し、広い国際的視野と国際協力の精神を有する次代を担うにふさわしい青年の育成を目指しています。

全国の青年の皆さんが、この事業に積極的に参加し、帰国後もその経験をいかして地域、職域、学校又は青少年団体等において国際交流活動、青少年活動などを活発に行い、社会に貢献されることを期待しています。

平成13年度の事業概要、応募資格等は次表のとおりです。

		航空機による青年海外派遣		世界青年の船	東南アジア青年の船	
訪 問 国 等		オーストリア、ジョルダン、メキシコ、ミャンマー、スウェーデン、ジンバブエ（うち1か国）	中 国	韓 国	アラブ 首長国連邦、ケニア、南アフリカ、モーリシャス [南西アジア、中近東、アフリカ、ヨーロッパ、北米、南米、オセアニア等地域の外国青年約150人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問]	フィリピン、ブルネイ、ヴィエトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール [東南アジア10か国[ラオス、ミャンマー、カンボディアを含む]の青年約300人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問]
実 施 時 期 (期 間)		平成13年8月～9月	平成13年9月		平成13年10月～12月	平成13年9月～10月
		23日間程度	19日間程度	15日間程度	50日間程度	50日間程度
募 集 人 員		各約10人	一般団員：中国 約25人 韓国 約35人 渉外団員：各2人		約120人	約40人
資 格 要 件	年 齢	18歳～30歳 (昭和45年4月2日～昭和58年4月1日に出生)	一般団員：18歳～30歳 (昭和45年4月2日～昭和58年4月1日に出生) 渉外団員：概ね25歳～35歳		18歳～30歳 (昭和45年4月2日～昭和58年4月1日に出生)	18歳～30歳 (昭和45年4月2日～昭和58年4月1日に出生)
	青 少 年 等 活 動 等	帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行える者				
	語 学 力 等	一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。	訪問国の公用語による簡単な日常会話能力があれば望ましい。 渉外団員：訪問国の公用語で任務を遂行できること。		一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。	
	そ の 他	国の行う同種の事業に参加したことのある者は応募できません（ただし、渉外団員への応募はこの限りではない）。				
研 修	事 前	7月中旬の約5日間		7月下旬～8月上旬の約5日間		7月上旬の約6日間
	出 発 前	出発直前の約2日間		出発直前の約3日間		出航直前の約3日間
	帰 国 後	帰国直後の約2日間		帰国直後の約2日間		帰国直後の約2日間
個 人 負 担 額		約7万円		約30万円		約30万円
		〔内訳〕研修費（事前、出発前、帰国後）、片道航空運賃及び食費（船事業のみ）、渡航手続費用、等（上京・帰郷旅費、旅行保険料等は、別途負担となります。）				

内 閣 府（青年国際交流担当）

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 ☎(03)3581-1181（月～金 9:30～17:45）

ホームページ：http://www8.cao.go.jp/youth/fkoryu1.htm

平成13年度事業日本参加青年募集担当都道府県主管課一覧

都道府県	主 管 課 名	電 話 番 号	募 集 期 間	中間選考日
1 北海道	総務部知事室国際課 環境生活部生活文化室（国際青年の村のみ）	011-231-4111（内21-215） 011-231-4111（内24-511）	3/ 1 ～ 3/30	書類選考
2 青森県	環境生活部青少年課	017-734-9225（直通）	3/ 5 ～ 4/ 5	4/18
3 岩手県	生活環境部青少年女性課	019-629-5346（直通）	3/ 1 ～ 4/ 6	4/20
4 宮城県	教育庁生涯学習課	022-211-3654（直通）	3/ 1 ～ 4/ 2	4/17
5 秋田県	生活環境文化部県民文化政策課	018-860-1552（直通）	3/12 ～ 4/10	4/17
6 山形県	文化環境部県民生活女性課	023-630-2101（直通）	3/ 5 ～ 4/ 5	4/20
7 福島県	生活環境部青少年女性課	024-521-7187（直通）	3/ 5 ～ 4/ 6	4/19
8 茨城県	知事公室女性青少年課	029-301-2183（直通）	3/ 1 ～ 3/30	4/20
9 栃木県	生活環境部女性青少年課	028-623-3075（直通）	3/ 1 ～ 3/26	4/17
10 群馬県	保健福祉部青少年こども課	027-226-2628（直通）	3/ 1 ～ 3/31	4/9～12
11 埼玉県	総務部青少年課	048-830-2912（直通）	3/ 5 ～ 3/23	4/13
12 千葉県	環境生活部県民生活課	043-223-2330（直通）	3/ 1 ～ 3/29	4/17
13 東京都	教育庁生涯学習部社会教育課 生活文化局女性青少年部青少年課（国際青年の村のみ）	03-5321-1111（内54-433） 03-5321-1111（内29-532）	3/ 1 ～ 4/ 6	書類選考
14 神奈川県	県民部青少年課	045-210-1111（内3845）	3/ 1 ～ 3/23	4/15
15 新潟県	福祉保健部児童家庭課	025-280-5214（直通）	2/26 ～ 3/30	4/19
16 山梨県	企画部県民室青少年女性課	055-223-1357（直通）	3/ 1 ～ 4/ 7	書類選考
17 長野県	社会部青少年家庭課	026-232-0111（内2358）	3/ 1 ～ 3/30	書類選考
18 静岡県	教育委員会事務局青少年課	054-221-3312（直通）	3/ 1 ～ 3/23	4/13
19 富山県	生活環境部女性青少年課	076-444-3136（直通）	2/26 ～ 3/27	4/19
20 石川県	県民文化局女性青少年課	076-223-9112（直通）	3/12 ～ 4/10	4/22
21 福井県	県民生活部青少年女性課	0776-20-0297（直通）	3/ 1 ～ 4/ 9	4/15
22 愛知県	県民生活部社会活動推進課	052-961-2111（内2485）	3/ 1 ～ 3/30	書類選考
23 三重県	生活部青少年・私学課	059-224-2404～6（直通）	3/ 1 ～ 3/30	4/11
24 岐阜県	地域県民部青少年課	058-272-1111（内2422）	2/26 ～ 3/26	4/12
25 滋賀県	教育委員会事務局生涯学習課青少年室	077-528-4661（直通）	3/ 1 ～ 4/ 6	4/22
26 京都府	府民労働部青少年課	075-414-4306（直通）	2/21 ～ 3/30	4/18
27 大阪府	生活文化部青少年課	06-6941-0351（内4844）	2/26 ～ 3/23	4/ 6
28 兵庫県	県民生活部生活文化局こころ豊かな人づくり推進課 （勤労部青少年本部事業推進部）	078-362-3143（直通） 078-360-8581（直通）	3/ 1 ～ 3/21	4/20
29 奈良県	生活環境部青少年課	0742-22-1101（内3345）	3/ 1 ～ 4/ 6	書類選考
30 和歌山県	環境生活部青少年課	073-441-2503（直通）	3/ 1 ～ 3/31	4/15
31 鳥取県	生活環境部県民生活課県民活動推進室	0857-26-7076（直通）	3/ 8 ～ 4/ 6	書類選考
32 島根県	総務部国際課	0852-22-5019（直通）	3/ 1 ～ 3/23	4/16
33 岡山県	生活環境部女性青少年対策室青少年課	086-224-2111（内2543）	3/ 1 ～ 3/30	4/17
34 広島県	環境生活部青少年女性課	082-228-9335（直通）	3/ 1 ～ 4/ 4	4/13
35 山口県	環境生活部女性青少年課	083-933-2634（直通）	3/ 1 ～ 3/29	4/12
36 徳島県	企画調整部青少年室	088-621-2176（直通）	3/ 1 ～ 3/30	4/ 8
37 香川県	生活環境部青少年女性課	087-832-3195（直通）	3/ 1 ～ 4/10	4/22
38 愛媛県	保健福祉部児童福祉課	089-941-3434（直通）	3/ 1 ～ 4/ 3	4/20
39 高知県	文化環境部国際交流課 健康福祉部こども課（国際青年の村のみ）	088-823-9605（直通） 088-823-9637（直通）	3/ 1 ～ 3/30	4/12
40 福岡県	生活労働部青少年課	092-643-3387（直通）	3/ 1 ～ 4/ 2	4/18
41 佐賀県	福祉保健環境部児童青少年課	0952-25-7055（直通）	3/ 5 ～ 4/ 6	4/19
42 長崎県	教育庁生涯学習課	095-824-1111（内3366）	2/26 ～ 4/ 6	4/17
43 熊本県	環境生活部県民生活総室	096-383-1111（内7409）	3/12 ～ 4/ 6	4/13
44 大分県	生活環境部女性青少年課	097-536-1111（内3048）	3/ 1 ～ 4/ 6	4/20
45 宮崎県	生活環境部女性青少年課	0985-26-7041（直通）	3/ 1 ～ 3/30	4/9～13
46 鹿児島県	環境生活部青少年女性課	099-286-2554（直通）	3/ 1 ～ 4/ 6	4/18
47 沖縄県	文化環境部青少年・交通安全課	098-866-2182～4（直通）	3/ 1 ～ 4/ 9	4/19

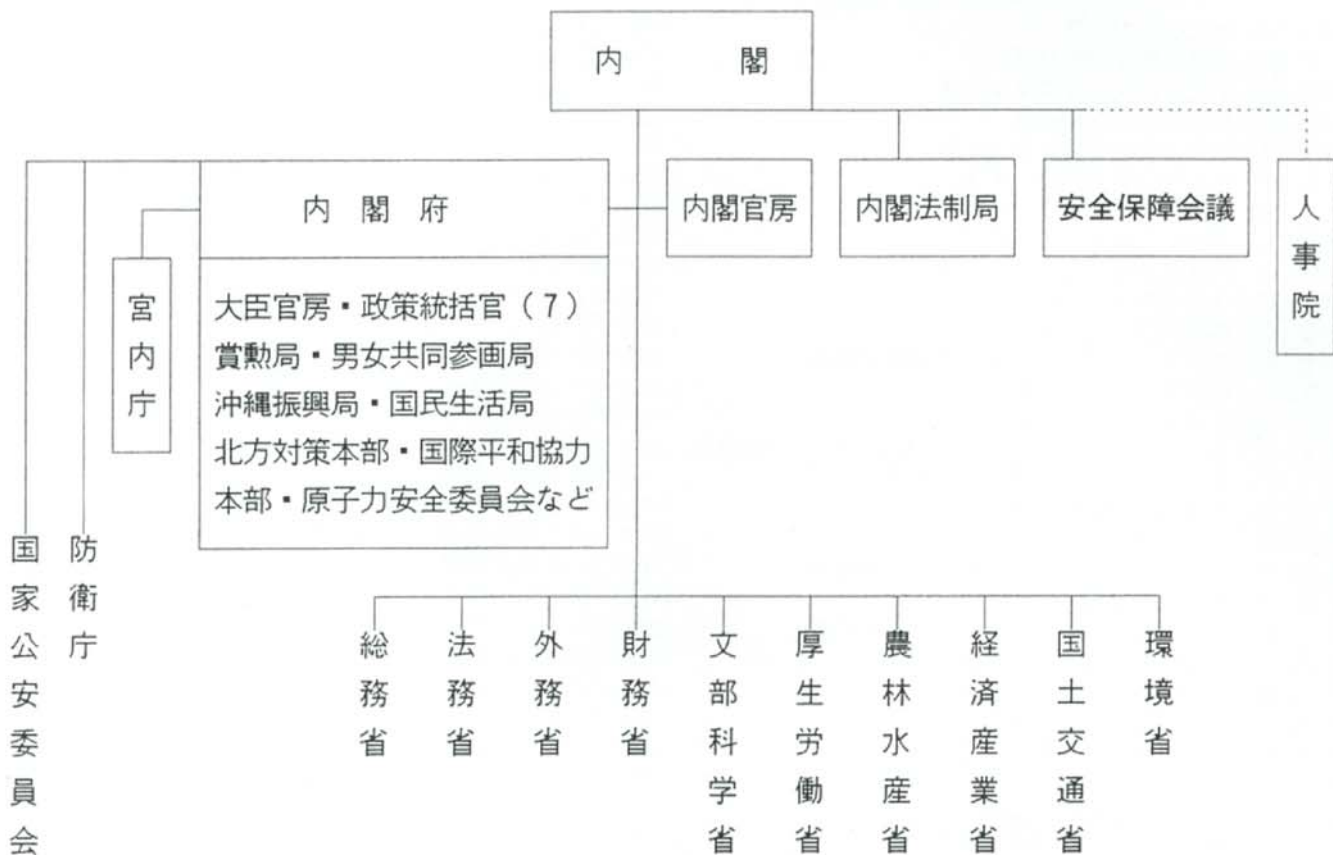
※都道府県レベルでの選考方法、手続きは異なりますので、受験該当地で確認して下さい。

※国際青年の村は、募集期間が異なります。

内閣府青年国際交流事業の所管について

前号でお知らせしましたが、省庁再編により、総務庁青年国際交流事業は、内閣府本府に設置されている「内閣府政策統括官（総合企画調整担当）」という部署に引き継がれました。名称からは少々中身が判りにくいとおもいますので、その組織概要を行政機構全体を含めて簡単に説明させていただきます。

省庁再編により1府12省庁に組織改編され、内閣府は12省庁の取りまとめ官庁として格上の位置付けになっています。青年国際交流事業は、内閣府に置かれている7つの政策統括官の「総合企画調整担当」の推進担当に位置付けられています。「総合企画調整担当」には、この他に青少年健全育成、高齢社会対策、障害者施設、交通安全等が含まれており、青年国際交流事業との連携なども取り組みやすくなりました。



内閣府代表番号
国際交流振興担当

TEL. 03-5253-2111 (代表)
TEL. 03-3581-1181 (直通)

14th SSEAYP International General Assembly (SIGA)

June 21 – 24, 2001
Bangkok & Rayong, Thailand



「東南アジア青年の船」既参加青年が事業で培った友情を再確認し、各国同窓会や個人的ネットワークを広げていくことを目的として毎年開催されている総会です。



日 時： 平成13年6月21日(木)～24日(日)



場 所： タイ (バンコク&ライオン州サメッド島)



宿 泊： バンコク市内ホテル(1泊)&アンダマンプリンセス号(2泊)



参加費(予定)：<宿泊費(2人一部屋使用)、プログラムに伴う食費、交通費及び諸経費が含まれます。>

・早期申し込み US\$175 <平成13年4月19日(木)まで>

・通常料金 US\$195



内 容： 開会式、ワークショップ、アンダマンプリンセス号にてのクルーズ、サメッド島でのアクティビティー、第28回「東ア船」記念イベント など
*詳細は、http://www.geocities.com/bangkok_siga/をご覧ください。



申込方法： IYEO SIGA係から、申込書等の必要書類を取り寄せてください。

< I Y E O 事務局 S I G A 係 >

〒103 - 0013 東京都中央区日本橋人形町2 - 35 - 14 東京海苔会館6階

TEL : 03 - 3249 - 0767 FAX : 03 - 3639 - 2436 E-MAIL : siga@iyeo.or.jp

担当： 赤澤、渡辺

日本青年国際交流機構第33回全国推進会議開催

日本青年国際交流機構第33回全国推進会議が2月24、25日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。省庁再編に伴い、総務庁青少年対策本部から内閣府政策統括官（総合企画調整担当）に所管が変わって初めての会議でしたが、出席者はそれによる変更点について理解し、会はスムーズに進行しました。

本会議においては平成12年度活動および平成13年度の活動について報告・議論が行われたのに加え、新しい試みである「国際交流ハンドブック」作成に向けた話し合いの時間が設けられ、IYEOの活動のみならず幅広い場所で役立つ冊子作りに向け、本部役員および都道府県代表者の知識と経験を出し合いました。

また、平成13年度活動スローガンについては、本部役員および都道府県代表者による投票の結果以下のように決定いたしました。ご応募いただいた皆様、有り難うございました。

日本青年国際交流機構平成13年度活動スローガン

1. 国際化時代にふさわしいリーダーの育成

「君の出番が控えている！ 世界のどこにも、日本にも」

（埼玉県：匿名）

2. 地域国際化への貢献

「事後活動、地域へ広げる国際交流の輪」

（福岡県：藤永 郁智（第18回青年の船））

3. 国内・国際ネットワークの確立と機能充実

「深めようコミュニケーション、広げようネットワーク」

（茨城県：菊池 悦子（昭和51年度海外派遣））

「おいでませ！元気のくに、山口へ！ ～ みなちごーちよって、みなええほ！」

－ 第 17 回日本青年国際交流機構全国大会山口大会のお知らせ －

平成 13 年 8 月 4 日（土）～5 日（日）に日本青年国際交流機構第 17 回全国大会山口大会が開催されます。実行委員会は開催に向け着々と準備を進めており、皆さんの申し込みを今から心待ちにしております。

「山口きらら博」の開催期間中でもありますので、ご家族ご友人をお誘い合わせの上ご参加いただきたいと思います。大会の詳細は次号マクロコズムにてお知らせいたします。

開催日：平成 13 年 8 月 4 日（土）～5 日（日）

主会場：（財）山口県婦人教育文化会館・パルトピア山口 防長青年館

主な内容（予定）：

- ・ 基調講演
 - ・ 国際交流ワークショップ
（在住外国人とのディスカッション・世界の遊び体験・伝統芸能作成体験等）
 - ・ 歓迎交流会
 - ・ 民族衣装での交流会
（サムルノリ（韓国）、パンブーダンス（フィリピン）、一心響太鼓等）
 - ・ 「山口きらら博」での国際交流体験発表
- ＊ その他充実したプログラムで皆様のお越しをお待ちしております。

連絡先：全国大会山口大会実行委員会事務局（4 月よりスタッフが常駐します！）

〒753-0064 山口県山口市神田町 1-80 パルトピア山口・防長青年館 1 階

Tel: 083-921-8771 Fax: 083-928-1669 E-Mail: y-iyee@mx5.tiki.ne.jp

詳細についてのお問い合わせ先：

中野智昭（山口大会副実行委員長（20 回青年の船・95 年韓国派遣））

〒753-0861 山口県山口市矢原 997

Tel/Fax: 083-932-0939 E-Mail: y-tomo2@mx5.tiki.ne.jp

平成 13 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

平成 13 年度ブロック大会の開催日程は以下の通りです。詳細は開催時期に合わせてマクロコズム誌上または Bulletin Board でお知らせしていく予定です。

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	青森県	10 月 13 日～14 日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	群馬県	12 月 1 日～2 日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	石川県	(未定)	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	静岡県	11 月 3 日～4 日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	京都府	(未定)	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	広島県	(未定)	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	愛媛県	平成 14 年 1 月 26 日～27 日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	宮崎県	9 月 22 日～23 日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

編集後記

13 年度の募集が開始され、新しい仲間を迎える準備が始まりました。外国青年も含め、新しい出会いへの期待で心楽しい季節です。

様々な事件が、私たちを不安な気持ちにさせますが、常に人と人が力を合わせることの素晴らしさを忘れず前向きに進みたいものです。

* 本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又は F A X にてお申し込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 3 月号 Vol.39 2001 年 3 月 20 日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL http://www.iyeo.or.jp

編集協力：内閣府政策統括官
(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価：198 円 (本体 189 円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

内閣府（総務庁）青年国際交流事業帰国報告会

～航空機による海外派遣～

2001年2月4日（日）



▲ パネルディスカッション
訪問国の文化の違いを改めて知る



▲ 民俗衣装を身に付け、文化紹介（中国）

平成12年度の国際青年育成交流、日中青年親善交流、日韓青年親善交流の各事業参加者が、東京の国立青少年総合センターにて実施しました。

派遣団の枠を越えて集まった仲間たち ▶

各国ブース発表



◀ ビデオ上映で活動を分かりやすく説明（タイ）



第13回「世界青年の船」帰国報告会

Discovery ～発見～ 2000年2月11日(日)



▲ 発表に聞き入る来場者たち



▶ 小グループに分かれての懇談会



◀ 船内自主活動として行ったフルート演奏



参加国毎の紹介ブース



美しい時代へ——東急グループ

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——



豊かな感動のステージへ——
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>



心を込めたおもてなしと多彩な施設で
皆さまをお迎えいたします。

- 客室901室
- 12のレストラン&バー
- 大小22の宴会場

 **東京全日空ホテル**
ANA HOTEL TOKYO

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目12番33号 Tel.(03)3505-1111